

各関係機関長 様

農業技術防除センター所長

## チュウゴクナシキジラミの防除の徹底について

県内のナシ園において、チュウゴクナシキジラミの越冬成虫の次世代成虫（夏型成虫、写真1）が平年より早く確認されました。

つきましては、圃場内をよく観察し、下記事項を参考に、防除を徹底してください。



写真1 チュウゴクナシキジラミ  
（夏型成虫）

記

### 1. 発生状況について

- 4月15日の定期調査（露地栽培4園地）において、一部圃場で本虫の発生が確認され、平均寄生新梢率が3.0%（平年0%、前年0%）であり、平年より発生が多かった（図1）。また、越冬成虫とともに夏型成虫の寄生が確認された。
- 同日、定期調査地点以外のトンネル栽培3園地を調査した結果、2園地でも発生が確認された。

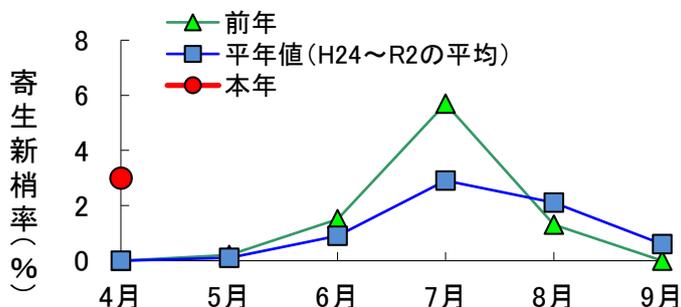


図1 露地栽培ナシ園におけるチュウゴクナシキジラミの発生推移

### 2. 防除対策について

- 今後の防除適期は、平年であれば5月中旬頃及び7月中旬頃であるが、本年は発生が早いことから、圃場内をよく観察して発生状況の把握に努め、本虫の発生初期からの防除を徹底する。
- ネオニコチノイド系薬剤に対する感受性が低い個体群が確認されているため（表1）、必ず薬剤散布後に発生状況の確認を行う。効果の低下が疑われる場合は、異なる系統の薬剤（ディアナWDG等）を散布する。
- スピードスプレーヤーによる薬剤散布は全列走行を基本とする。また、薬液が到達しにくい園周縁部等で本虫が多発している園が散見されるため、このような部位をよく観察し、手散布をするなど丁寧に散布をする。

表1 チュウゴクナシキジラミ成虫に対する各種薬剤の殺虫効果(2019年 佐賀県果樹試験場)

薬剤名	IRACコード	希釈倍数	生存率(%)	補正死亡率(%)
アドマイヤー水和剤	4A (ネニコチノイド系)	1,000	64.3	30.4
ダントツ水和剤	4A (ネニコチノイド系)	2,000	92.9	0
アルバリン顆粒水溶剤	4A (ネニコチノイド系)	2,000	92.9	0
ディアナ WDG	5 (スピノシン系)	5,000	7.7	91.7
水処理			92.3	

採取地：伊万里市松浦町現地ナシ園。試験方法：薬液を噴霧したナシ枝葉に成虫を放飼して、放飼4日後に生死を判定した。補正死亡率：値が高いほど防除効果が期待できる

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部  
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088  
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5042

